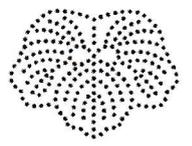


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のご挨拶のようへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



リゅうま伝

55号
2024年6月26日
高野竜馬

「走りの学校」

「足の速さは才能じゃない。走りの学校、和田賢一です。毎回このフレーズで始まるコーチングにはまっている、高野です。

この動画、ホント良く出来て、るんです。冒頭のキャッチコピーもそうですが、良く計算されています。走り」というものを通じて、よく人の感情に入ってくるというか。

出し惜しみの無い内容は勿論、「走りの学校」は今まで才能だと諦められていた足の速さを解説することで、成功体験をお届けするチャンネルです」と言うミッションも素晴らしい！理念経営の実践者という視点から見てモタメになります。当初、サッカーをやって、息子の足を速くしたくて、見始めた

のですが、確かにやるとスピードが上がります。面白いのは、それを傍で見えていた娘が、「私もやるよ」と、朝のトレーニングに交ってきたことです。

娘は中学でバレーをやっているのですが、「リゅうま伝30号」で紹介したとおり、なんでお前がバレー？って思うくらい、運動と無縁で暮らしてきた子。

バレー部でもレギュラーとは無縁なこの子が大化けしたんです。なんと一ヶ月で50メートル走が、1秒以上速くなり、運動会のブロック対抗リレーに選ばれるまでになったのです。まじ、ビックリ！

リレーは陸上部やバスケット部の女子を相手に完敗でしたけれど、そういう子たちと同じ舞台上に立てたことが親として

嬉しくて嬉しくて(涙)。

ただ、アノ不格好なフォームであそこまで戦えたのですから、「伸び代」だらけです。娘は運動会後の今もトレーニングをしています(苦笑)。

そうやって毎朝、子ども達と短距離を練習していると、ふと思いつ出したんです。自分のコンプレックス(劣等感)を。俺は足が遅いことを理由に色んなことを諦めてきたなあって。

小学生の頃は野球がソコソコ上手くて地域の選抜にも選ばれたりしてたのですが、足が遅いこと、非力なことが私のコンプレックスでした。そういうのもあって、中学に入った時、野球を諦めたのです。

ところが、私の足は年を重ねるにつれ速くなり、高3の時はクラスでも速い方になっていたので。

タイムは忘れましたが、記録を見た時、妙にホカインとした

のを覚えていきます。

「俺の足は、成長スピードの問題だったのか...」
そして今、人生を振り返ると、「才能」という言葉を持ち出して諦めてたこと多いよなって、気づいたのです。

「今からやろうよ」と子ども達から教えられて、いる気がするのです。
という訳で毎朝、子ども達と一緒に汗を流す今日この頃です。



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com